

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

し、これほど苦しむくらいなら、いっそエジプトでの隷属状態に戻った方がマシだと嘆いたときに、神が与えた不思議な食物を指し、荒れ野の40年の放浪の間、民がマンナを食べて生き延びたという神話的な食物です。

この聖書箇所において、ヨハネ福音書のイエスは、マンナの逸話を取り上げて物質的な問題に言及しているようでありながら、実際には精神的な問題に主題を切り替え、本当に大切なものは何かを伝えています。確かに、この世界において、マンナに象徴される食物は不可欠で大切なものです。だからこそ、本学の使命でもある「食」を通して、この世界の「命・健康・平和」に寄与することがいかに尊いのかも自ずと了解できるのです。つまり、食は命に直結する、あるいは食は命そのものでもあるということです。

しかし、創立者の黒澤西蔵先生が目指したのは、物質的な「命」の問題に留まるものではなく、精神的な「命」をも覆うものでした。それゆえにこそ、日本で唯一の農学系のキリスト教主義大学を創立したのです。すなわち、本学が聖書に基づく「神を愛し、人を愛し、土を愛す」から成る「三愛精神」を掲げ続けているのは、本学の使命は物質的な「食と命」に関わる教育と研究にあるわけではなく、精神的な「食と命」をも覆う教育と研究にあるからにはほかならないからです。

荒れ野のイスラエルの民は、カナン之地に到達するという出エジプトの目標を忘れてしまった結果として、40年もの間、荒れ野をさまよったと聖書は伝えます。目標を忘れてしまうとき、人はさまようのです。本学の目標を常に想起しつつ、学生のみなさんひとりひとりの目標をも見据えながら、「身体と精神の糧」となる真に「人を生かすもの」を求めてください。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では、学生・教職員有志による聖歌隊が合唱をしています。礼拝の前と後にオルガン前で練習をしています。歌ってみたい方は練習にお越しく下さい。参加できるときに一緒に歌ってくださることも可能です。

【次回の大学礼拝】2026年10月27日（火）10時40分

聖書：ヨハネによる福音書 14 章 6-7 節

奨励：「与えられた命」宮庄 拓（獣医保健看護学類准教授）

讃美歌：1-312 番（いつくしみ深き）、1-320 番（主よみもとに近づかん）

【前回の大学礼拝】2026 年 10 月 13 日（火）

学生：66名 教職員：10名 合計：76名

【大学礼拝週報】2026 年度 第 19 号（後学期第 4 号）

2026 年 10 月 20 日（火）午前 10 時 40 分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

司 式 小林昭博（宗教主任・循環農学類教授）
奏 楽 佐藤理恵（日本基督教団野幌教会オルガニスト）
讃美指導 相原晴伴（農環境情報学類長・教授）

前 奏 愛しまつるみ神にのみ（J.C.バッハ作曲）

讃美歌 21-532 番（やすかれ、わがこころよ）

聖書 ヨハネによる福音書 6 章 48-51 節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨励 「人を生かすもの——身体と精神の糧」小林昭博（宗教主任）

祈り

讃美歌 21-18 番（心を高くあげよ！）

報告

後 奏 すべてのものよ、いざ感謝しほめ讃えよ（ケミン・ペティット作曲）

【本日の聖書】ヨハネによる福音書 6 章 48-51 節（新共同訳）

48 わたしは命のパンである。 49 あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが、死んでしまった。 50 しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。 51 わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

【奨励】「人を生かすもの——身体と精神の糧」

本日の聖書は続けて読んできたヨハネ福音書の「命のパン」の教説の一節です。ここに登場するマンナとは、出エジプト記 16 章において、モーセに率いられたイスラエルの民が、荒れ野の放浪の途中で、食物にも困窮